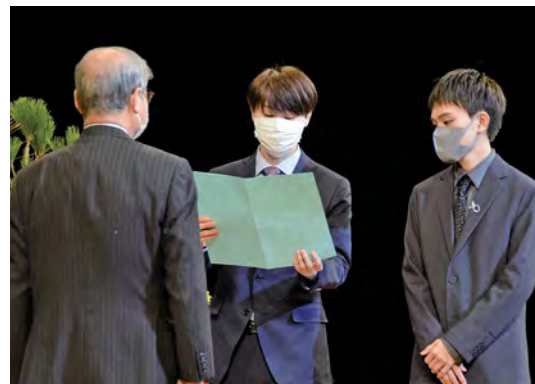


# 455人 決意新た

令和4年度に二十歳を迎える人を祝う「二十歳のつどい」を1月9日、文化センター大ホールで開催し、色鮮やかな振り袖や羽織袴、スーツに身を包んだ455人(対象者649人)が出席し、人生の新たなスタートを切りました。

## 二十歳のつどい

式典は、市内で活動する和太鼓サークルの迫力ある演奏で開会。その後、堀口市長と岡田議長からお祝いの言葉が贈られました。



市長に向かって誓いの言葉を述べた河野さん(右)と笹原さん(中央)

参加者を代表して誓いの言葉を述べた河野拓斗さんと笹原悠太さんは、「自らの行動に責任を持ち、自分らしさを発揮し、目標に向かって努力を欠かさず、そんな大人になりたいと思います。そして各々が、彩り富んだ自分だけの花を咲かせ、これからの人生を実りあるものにしていきたいと思えます」と決意を新たにされました。

式典終了後は、同センター小ホールで母校の先生方を招いた「二十歳を祝う会」を開催。参加者は旧友との再会を懐かしみ、思い出話に花を咲かせていました。



晴れ着姿で記念撮影をする参加者



舞台上で挨拶する「二十歳のつどい」実行委員会

## 火の神様にお祈りしたよ

### 有都こども園「とんど焼き」

竹を組んだやぐらに正月飾りや書初めを掛けて燃やす「とんど焼き」が1月12日、有都こども園近くの田んぼで行われ、0〜5歳児93人が今年1年の健康などをお祈りしました。

田んぼに集まった園児が「火の神様ー」と呼ぶと、職員が扮する火の神様が登場。手に持ったたいまつでやぐらに火をつけました。竹の「ポーン、ポーン」という破裂音とともに、やぐらの火が勢いよく燃え上がる。園児は炎を見つめながら、「おいしいご飯がたくさん食べられますように」「じいじとばあばが元気でいられますように」と、手を合わせてお祈りしていました。



やぐらに火をつける火の神様と炎を見上げる園児たち

## まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

## 3年ぶり 新春書初め

「寛永の三筆」である松花堂昭乗ゆかりの松花堂庭園で1月15日、「第26回松花堂新春書初め席書大会」が開催され、市内の幼児から中学生までの参加者52人が書初めに臨みました。

### 松花堂庭園で席書大会

同大会は、子どもたちに書に親しみをもってもらおうと、やわた市民文化事業団と市が共催し、文化協会書道部会や京都八幡高等学校道部の協力を得て実施。コロナ禍で3年ぶりの開催と

なった今回は、募集人数を縮小し、3部制で行われました。参加者は「うさぎ」「未来の夢」など、学年ごとに設けられた課題に挑戦。書道部会会員や書道部の生徒に「文字の留めや、はらいに注意する」などの助言を受けながら、見本を参考に丁寧に筆を運んでいました。西優花ちゃん(6)は、「書初めをしたのは初めて。書き方を教えてもらって楽しかった」と話していました。

## 今月のこの人

## 二十歳 大切な人たちに感謝



二十歳のつどいの実行委員、男山中学校出身。大学2年生。

### 袖岡 菜月さん

「今年は、親戚の子どもにお年玉をあげました。金銭面や生活面でも、できることは自分できるようになりました」と、二十歳をきっかけに自立を意識するようになったという袖岡さん。中学時代は学級委員として、生徒のやる気を促すため、良いことをするとポイントがたまる制度を導入。

「特典などはなかったけど、生徒同士の仲が深まってよかった」と当時を懐かしみます。現在、大学では文化学部ゼミに参加。市内の寺院に行き、現地調査を行い京都文化の魅力をもとめてパ

ンフレットを作成し、イベントで公開。フィールドワークを通じて地域の魅力を伝える方法を学んでいます。「家族には、今まで支えてもらった感謝を伝えたいです。また、恩師や友達への感謝を忘れず、周囲の期待に応えられる大人になりたい」と、大切な人たちへの感謝と決意を胸に、今後の人生を歩んでいきます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。